相生山緑地
オアシスの森くらぶ
ニュースレター２３号　2005.1.15発行

発　行　オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人　大　館　　学
編集人　近　藤　　眞　史

新年あけまして おめでとうございます

本年も相生山緑地、森くらぶ共々
よろしくお願いします

１２月定例活動
「年末恒例！門松づくりと梅の剪定」

中島　己治男

１２月２５日（土）は快晴で暖かく、多数の方々出席のもと今年最後の定例会「門松づくり」を実施しました。

まず全員で門松の材料の竹を切ったり、飾り用の松、南天、熊笹、梅、千両、万両等を取りに行きました。

設置場所は例年と同じ山根口で、今までは門松の設置台から手作りしていたのですが、今回は伊藤さん夫妻の提案で大きな木製の植木鉢を台にし、菰を巻いて使用したため、見栄えも良く作業時間も短くなり、昼前には、２．３ｍ位の門松が完成しました。

続いて持ち帰り用のミニ門松作りで、皆様色とりどりに飾り付けを楽しみました。

昼食後は、第二トンボ池付近の梅の剪定を実施し、一日楽しく作業しました。

皆様ご協力ありがとうございました。

『天白・もりのフォーラム　シンポジウム』

永田　修二

昨年、１１月２３日に天白文化小劇場で天白・もりのフォーラムシンポジウム「みぢかな自然が学校だ！」が開催されました。

このシンポジウムは天白区区制３０周年記念行事の１つとして行われたものです。

天白・もりのフォーラムは、天白区で主に自然を相手に活動している市民団体から成るネットワークです。われわれ「相生山オアシスの森くらぶ」をはじめ「平針探鳥会」「天白プレーパークの会」「東山自然観察会」など１０団体で構成され、行政とパートナーシップを組んで活動しています。

シンポジウム当日のプログラムは、基調講演者としてジョン・ギャスライト氏を招きツリークライミングを通して人と自然の結びつきなどを語ってもらいました。

その後、各団体の紹介に続いて、国連地域開発センター研究員の吉村輝彦氏のコーディネーターにより「次世代にどんな自然を残すのか」と題してパネルディスカッションに移りました。

パネラーとして森くらぶからは、眞弓さんが参加されました。相生山を始めとして天白区内の自然と人との関わりについて活発な意見が展開されました。

聴衆は、やはり年配の方が多く、もう少し若い人たちにも来てほしかったなと思いました。

このニュースレターは（財）ニッセイ緑の財団「雑木林の保全・再生」活動研究協力金により作成しています。

９月定例活動「道普請施工報告」

大舘　学

９月２５日（土）、本来なら秋本番といったこの時期にしては不釣合いなほど蒸し暑い一日に、参加会員一同の汗と気力で、散策路の改修工事がめでたく竣工しましたので報告いたします。

当日集まった男女１０数名、土木工事になぞらえて「オアシス土建」ご一行とでもしておきましょうか。森くらぶの小屋の近くから双子池の駐車場までの尾根越えの散策路の補修が本日の施工現場です。用意した資材は、メープルの角材と天白土木からいただいた長さ１．５ｍの木杭１５本ほど。

登り口から作業にかかったものの、木杭を半分に切断し先を尖らせたり、スコップとつるはしで土を掘りメープルの角材を据え付けその横に杭をカケヤで打ち込んだりといった過激な労働環境で、１時間もたたないうちに全員あごがあがりかけ、小休止。それでも何とか、昼になったころには入り口から十数段の階段が整いかなりの施工量を確保できました。

階段は水準器を使ってレベルを出し、杭も硬い砂利混じりの地盤に５０ｃｍ以上打ち込む本格的なもので、これなら１０年くらい大丈夫なできばえです。

工事を完了してオアシス土建の施工管理の能力は非常に高いことと、これだけの難工事を誰一人怪我することなく施工できたことで安全管理もばっちりということが証明されました。後は発注者である公園の利用者に有効に使ってもらうことが大切で、そのためにもこの道に人を誘いこむ道案内の看板が必要でないかと思いました。

特別活動「巣箱の点検＆掛け替え」

伊藤　晶子

１１月１４日曇り、朝９時に集合。まず古澤講師から、オアシスの森の鳥の生息状況をお話ししていただく。ここ数年の間に確認されたのは８６種で、１０月の調査では一日でその内の２１種を観察された、とのこと。この森は鳥にもオアシスになっています。

８月の定例活動で行った巣箱づくりに特別参加されたコイズミ産業から６名の方も加わって、各自が数個の巣箱を持って出発。

以前掛けておいた巣箱を長い竹竿の先に引っかけて降ろします。箱を開ける瞬間がワクワクドキドキです。最初の箱は直径３センチの入り口がすり減って、少し大きくなっていました。中にはミズゴケがびっしりと敷き詰められ、真ん中は見事な丸いくぼみができ、羽毛も残っていました。幸せなシジュウカラの家族（？）に利用されていました。

古い巣箱は修理のために持ち帰り、新しい巣箱を掛けました。このように次々点検していくと、以前掛けておいた９個の内、６個はシジュウカラに利用され、ほかは冬眠中のアシナガバチ、ドロバチ、スズメバチ、ヤモリに利用されていました。利用率の高さに気をよくして、今年は１７個を掛けました。

私たちが楽しそうに点検しているので、散歩中の家族２組も加わって、森の中を賑やかに行進です。巣箱が降ろされると、子どもたちは我先にと覗き込み、ヤモリを見て、家で飼いたいと親に交渉している子もいました。高い枝に巣箱を掛けるのは結構難しく、二度三度と失敗した後成功すると大拍手です。

来年は是非皆さんも参加して下さい。

シリーズ『炭焼きの話』（第４話）

村田　英二

私は名古屋市内の町中に生まれ育ちました。里山保全活動に参加する以前は、ほとんど自然と係わらな暮らしでしたそして今、私はオアシスの森くらぶの活動を通じて身近な自然のすばらしさを自覚しています。

都会暮らしの人は「消費者」と呼びかえても良いかもしれません。

消費者は自然も直接関係をもたないし、命の糧となる食べ物さえも「商品」です。商品である以上、平気で捨てられても仕方ない訳です。でも本当にそれでいいのでしょうか。

私は「消費者」ではなく「生活者」になりたいと思っています。

生活者は降り注ぐ太陽に感謝して命の大切さを知る人、自然の中で生かされている自分を自覚する人です。自然の恵に感謝できる人は決して食べ物を粗末にはできません。

こういうことを学校でいくら教えても、残念ながら体験を伴わない知識は決して身につきません。

現代社会において自然を身近に感じられる生活を体験することは難しいですが、ほんの少しでもそういう体験ができるフィールドがあればとても有意義なことだと思います。

私は都市における市民里山保全活動の意味はこの点にあると考えます。

山の恵を生かした暮らしは、私たちの先祖が営々と営んできた生活そのものです。いま市民が先祖の生活の一部を体験出来るのです。

山の恵のなかでも炭はとりわけ利用価値が高いものです。近年日本人は直火文化を消滅させつつあるそうですが、私自身は森の仲間と炭火を囲んで暖をとったり、炭を使って料理ているときに本当に心地よく感じます。

こころの豊かさを得るためには、こういう体験が不可欠だと考えてます。

里山保全活動は私にいろいろなことを教えてくれました。

これからも炭作りを通じて生活者の一端を体験していきたいと考えています。出来れば仲間の輪が広がることを願っています。

今回で炭焼きの話は終わりです。ご愛読ありがとうございました。

１０月定例活動「第6回どんぐり祭り」

大舘　学

毎年恒例の「どんぐり祭り」、回数を重ねるに従い運営も手際が良くなり、また今回は天白土木事務所との共催であったため土木事務所さんに花苗（ルドベキア）の提供を受け、さらに会場設営にあたりダンプカーによる荷物の運搬など全面的に協力いただき、パートナーシップのありがたさ？を痛感いたしました。

さて、内容はといいますと、相変わらず人気を集めたのが、「森のクラフト」コーナーで、竹やどんぐりなど森の産物を利用した工作やストーンペインティングなどに親子で楽しむ姿が最後まで見られました。

１００円の参加費で１日楽しめることで、すっかり定着した格好です。また今回は名古屋市水辺研究会から有馬さんが特別参加してくださり、ウサギやねずみのかわいらしいフィギュアに小さな子どもたちが行列を作っていました。

毎回おなじみになったツリーハガーズの指導による木登り体験も行列ができていました。

私も念願かなって初めて体験してみました。ロープにつくった輪に足を掛け、足を蹴りながらカラビナでつるした自分の体をロープを引き持ち上げる、これの繰り返しで面白いように登っていけることが判りました。木の上から見る森はいつもと違い、鳥になった気分を味わえました。

昼には１杯５０円でトン汁が振舞われ、食後には蛭川さんのオカリナ演奏を楽しみました。

午後のイベントの華は丸太切り大会です。今年は参加者にクラブオリジナルの焼印のペンダントを賞品として出すこととしたため、皆結構力が入りました。丸太は直径１０ｃｍ程度のヒノキの間伐材のため丸太と呼ぶにはかわいらしいのですが、のこぎりは錆びて切れ味の悪いものを使ったため子どもたちにとっては結構大変な様子でした。

他にも、土木事務所の皆さんによる竹馬体験や、八事の蝶々の製作（今年は新作のアサギマダラが人気）、さらに、竹炭焼きの見学など、天候に恵まれ最後まで楽しく過ごすことができました。

シリーズ『森の住人たち』⑩
～カケス（懸巣）～
森づくりを担う

カケス／カラス科　　全長／33ｃｍ　　環境／平地から山地の林

カケスは160円切手の図柄に採用されている。

散策路のかたわらに羽根が散乱していた。青の濃淡・白・黒の鮮やかなその色彩は、カケスの羽根。おそらくオオタカなどの猛禽類に襲われたのだろう。

昨秋に鹿児島県奄美大島を訪れ、国の天然記念物であるルリカケス（瑠璃懸巣）を現地で観察。瑠璃色の羽根はヨーロッパで帽子の飾りとして人気があったという話に、うなずく。しかし、カケスの羽根の美しさは、それに勝るとも劣らない。見事なコントラストに魅了される。

カケスは「懸巣」と表記するように、木に枯れ枝で巣を懸けるからである。好んでカシなどのドングリの実を食べるのでカシドリ（樫鳥）ともいわれる。のどにある袋状のものに5～6個ほどのドングリを蓄えることができるという。鳥の観察を始めた頃に、シラカシの梢から勢いよく飛び立つ姿を目にしたことがあり、なるほど・・・と納得したものだ。

カケスの英名は、「Ｊay」というが、鳴き声を「ジェイ　ジェイ」と、とらえての命名だろう。聞きようによっては「ギャア　ギャア」とも。モズの鳴き真似上手はよく知られるところだが、カケスもまた鳴き真似上手だ。

カケスは賢い。秋、せっせっとドングリを地中に貯蔵し、食べ物の少なくなる冬に備える。厳しい季節を生きぬくための処世術である。しかし食べ忘れることもある。思いもよらない場所にドングリの木が芽吹く理由である。カケスは森の再生に一役買っているといえるだろう。むろんカケスの意図するところではないにしろ森づくりをする仲間だと思うと、親近感を覚えるのは私だけだろうか。

（文責　　自然案内人　近藤　記巳子）

１１月定例活動「山根の竹林管理」

真弓　浩二

１１月の定例活動は恒例となった「竹林管理」。今年も小春日和の中、総勢３０名以上の参加を得て盛況に行われました。

森くらぶとしては今回の定例活動を、新年１月１５日（土）に野並小学校で開催される「１．１７ＫＯＢＥあれから１０年～ボランティアの灯りを天白に～」イベントの協力活動として位置づけてきました。この日イベントの実行委員会を構成する「天白でぃぷり～天白防災助け合いの会～」をはじめ、多くの協力団体の皆さんが山根の竹林で「竹灯り」づくりに汗を流しました。

山根の竹林から古いモウソウチク約３０本を伐り出し、約７００個の「竹灯り」ができました。お昼には炭焼き広場のデッキに参加者が集まり弁当タイム。同時に行われた竹炭焼きの香りにつつまれながら、やがて竹の徳利・ぐい飲みで美酒を味わうなど楽しい交流会となりました。山根の竹林も管理活動の回数を重ねることで徐々に美しさを回復してきました。

さて、この「竹の灯りイベント」は、阪神・淡路大震災の被災者の追悼とともに、ボランティアの灯りを今後とも照らし続けようとの想いから過去２回催されてきたものです。１０周年記念となる今回は、２０００年の東海豪雨で大きな被災地になるとともに、多くのボランティアによる復興支援活動が行われたことから、この野並地区での開催となったそうです。森くらぶとしても地元で開催されるイベントでもあり竹林の管理にもなるということで協力することにしましたが、「荒池ふるさとクラブ」や「名東自然倶楽部」、「なごや平和公園里山愛護会」など市内で活動する森づくりボランティアグループも参加協力する機会にもなりました。

最近では中越地震やタイ・スリランカの大津波など甚大な被害を受け、また東海・東南海地震への準備や対処も呼びかけられているところです。始めて会った市民同士が互いの立場や主張を越えて、迅速かつ機能的に協働することが求められる災害ボランティア。協働の意義と課題など、日頃の森づくりボランティアの視点から改めて思いを馳せる機会となりました。

ホームページ管理・作成スタッフ　大募集!!

“森くらぶのホームページをもっと楽しくしたい！”“定例活動には出られないけど、自宅でできることなら手伝いたい”等々、ホームページに興味のある方、是非ご一報を!!

【連絡先】
masashi_k@muf.biglobe.ne.jp（近藤）

会員募集中！

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は
◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円（保険料含む）です。
主に連絡、郵送費です。
○振り込み先（郵便局）
オアシスの森くらぶ 00860-7-33725
連絡は事務局までどうぞ

定例活動スケジュール

集いの広場
10時集合

1月29日(土) ツツジの園づくり植生管理

林進先生をお迎えし、昨年作業したツツジの園の花芽の付き具合を確認しながら、美しい園づくりを目指した植生管理を行います。

注意！　１月は**第５**土曜日です。お間違えなく。

2月26日(土) アカマツ林再生プロジェクト

3月26日(土) 第7回萌え木祭り

4月23日(土) 2005年度 総会

１年間の活動スケジュールを決める重要なミーティングです。是非ご参加下さい。

場所／山根コミセン（予定）　時間／10時～12時

★午後は、点検を兼ねて森を散策します。

森くらぶ情報センター

■参加申込みやお問合せなど　■ニュースレターをメールで配信　■ホームページをご覧下さい

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島己治男 052-803-9534

申込先
e-mail:isoiso@eva.hi-ho.ne.jp
e-mail:masashi_k@muf.biglobe.ne.jp

URL address :
http://f44.aaacafe.ne.jp/~oasis/index.html

会員の皆さんへ・・・活動に関する各種の情報を提供するため、メールアドレスをお持ちの方は下記までお知らせ下さい。
e-mail : e-murata@bea.hi-ho.ne.jp　（村田　英二）